



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 13

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 13. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 13: 37-42

ISSUE DATE:

1953-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186869>

RIGHT:

No. 13

1953. 9月(10月1日)

7月水害の傷も表面的には、ようやく一応癒えて来て、客足もかなり繁くなり、愁眉を開いていたところに、お被岸を過ぎての悪天候に加えて、台風襲来の襲来となつた。台風が潮岬から東に進路をとつたので、直接の被害は甚大とは言えないが、広範囲に亘る降雨と強い西風及び波浪のため、和歌山縣下の交通網は海を除いてズタズタに破壊されてしまつた。この足の回復にばかりでも相当日数を要する。近在の人々は重なる打撃を受けており、京阪神地方も今度はいかばかりの被害を受けているので、この当分、水族館は閉店休業の状態であらう。9月の入場者数も中旬頃からポツリと落ちたために、7600名止りとなり、経理は約2万円の赤字となつた。10月は不本意下ら特別予備金を一時借用して凌ぐねばなるまい。なお水族館陳列室出口の番を^二貰つていた海嬢には、番所山からの申し出によつて、この月に限り4日の休日を実行して貰う事にした。

隣りの番所山熱帯植物園は1日より開園した。1日12時より折柄の降雨のため、博物館階上で関係者集合して開園式が行われた。同園では2500の明光バス運賃切符を発行している。6月号の夏に記しておいた番所山熱帯植物園に対する申入れに対しては、30日下記の回答が榎本氏より口頭を以てなされた。

『昭和28年9月1日現在、実験所構内に番所山植物園によつてなされている植物を含む一切の施設を実験所に寄贈する。この物的寄与と今後の博物館前広場を中心とする区域の維持に努力する人的寄与とを以て、水族館及び博物館を中心とする一帯の地域の開放に対する番所山熱帯植物園側よりの供与便宜の基盤と見做して貰いたい。』*

いずれ、委員会に於て正式決定を見るべき性質の事項ではあるがとり敢えず、この線に沿うて各委員の承認^二を受けておきたい。

* 但し将来、万一学校側より一方的にこの地域の開放を中止するよう

な事があつた場合には、ヤシの木についてのみ、その処分権を香洲山に留保しておく。

なお、海岸道路竣工延期願いは8月14日附で9月3日正式に提出された。

水槽に、ミカサゴ、ソノダシ、キハツソフ、フマミ等色彩に富んだ魚類が入り、アケウミガメの赤い坊が



博物館前に造った淡水池(山路季復撮影)

入つて、やっと自信を取戻したのも束の間、また見てくれる人がない次第となつてしまった。水族館の施設としては、中部水槽^{の水槽}室に魚の飛び出ない格子蓋を作り、ディーゼルエンジンにドラム缶の消音器をとりつけ(以上修理費)博物館前の池の周囲に鉄柵を設けた。また標識類を充実した。

記事

◎ 左海君は胃が悪くて8月31日以来病臥していたが11日胃潰瘍と診断され、白浜温泉療養所に入院した。

◎ 第13号颱風の被害は下記の通り

- 1 水族館及び博物館の屋根瓦剥落。
- 2 水族館陳列室ガラス屋根大破。
- 3 博物館壁剥脱。
- 4 ガラス窓破損。

◎ 昨秋実験所の辻豊松氏が拾得したテンマ船一隻は、このほど振興会が寄贈を受け、水族館及び実験所で使用する事になった。なお同船の管理保管の責任は辻氏にとって貰うように依頼し、承諾を得た。

◎ 9月の入場者数

水族館発売切符数

大人	4474	} 計	7594
小人	211		
団体	2909		

明光バス発売切符数

大人	24	} 計	24
小人	—		

合計 7618 (累計 98615)

無料入場者.....126(累計824)

◎9月の収入	(累計)
観覧券売上金.....	136,460.00.....1,712,317.00
雑収入.....	130.00.....86,083.00
8月1日の繰越し.....	4,946.00
借入金(会議費積立金).....	40,000.00.....101,000.00
計	181,538.00

◎9月の支出
一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	47,450.00	302,648.00	
光熱費	7,729.00	43,065.00	
消耗品費	730.00	20,165.00	
備品費	—	15,045.00	
修理費	22,885.00	25,321.00	
材料費	9,725.00	14,390.00	
厚生費	230.00	2,180.00	
旅費	110.00	350.00	
諸税公課	—	42,043.00	
租費	1,160.00	1,755.00	
通信運搬費	1,260.00	9,932.00	
契約金	—	115,300.00	
合計	91,579.00	759,194.00	

水族館設備改善費

項目	金額	累計	備考
便所建築費	—	170,470.00	
電話室設置	—	3,565.00	
花壇設置	—	6,460.00	
博物館外工事	—	34,575.00	
オサガミ標本費	—	40,000.00	
博物館外工事	—	19,500.00	
水槽工事追加	2,000.00	15,160.00	
立灯設置	5,035.00	5,035.00	
合計	7,035.00	296,775.00	

実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,966.00	27,062.00	月給表 研究補助
印刷費	—	200,000.00	
備品費	—	123,100.00	
設備修理費	6,762.00	82,517.00	紙屑入 計上
特別費	—	—	
合計	10,728.00	432,679.00	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	1,650.00	32,825.00	採集謝礼E台
備品費	563.00	26,743.00	標本箱
修理費	515.00	6,723.00	ガラス
消耗品費	—	2,611.00	
旅費	—	240.00	
通信運搬費	—	40.00	
合計	2,728.00	69,182.00	

積立金

費目別	金額	引当高	現在高	備考
バス・ATV資金	7,000.-		15,000.-	
賞与資金	7,000.-		65,000.-	
厚生資金	1,500.-		7,650.-	
災害時予備金	—		12,121.50	ナガノ様 共済会に入 り11,544.-
会議費積立金	—	40,000.-	—	
水族館備用料積立金	—		25,000.-	
特別予備金	22,740.-		70,620.-	
合計	38,240.-	40,000.-	245,391.50	

支出合計

一般経費	91,519.00
水族館設備改善費	7,055.00
実験所改善費	10,728.00
博物館費	7,728.00
積立金	38,240.00

計 155,310.00

10月に繰越(26,228.00

9月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(19)	7	1	6
気温	22.9 — 28.1 25.9	23.5 — 28.0 26.3	24.5 — 25.8 25.1
水温	25.0 — 27.2 26.4	25.2 — 27.2 26.4	25.6 — 25.8 25.9

但し 気温は南水槽で10時に測り
水温はNo.22水槽

9月の魚

何と言つてもこの月の人気者は3日、4日、6日の3回に亘って持込まれたアカウミガメの衆人環視である。全部で現在100匹を数えるが、越冬設備と脱み合せて、余剰の分は水温のあまり低下せぬ中に放流してやらないと思つてゐる。已報のタコはNo. 8号水槽で健在。人目を惹いてゐる。

①ミノカサゴ……ハナミノカサゴを混えて8月29日、17日、18日の3回運び込まれたが、現在2尾が生存している。

②キハツソフ……7日、13日、27日、29日に計10尾が持込まれたが、現在5尾が生存している。

③アミモンガラ……9月 串本産のもの4尾が持込まれたが、現在5尾生存。

④モンガラカワハギ……13日1尾、餌について健在。

⑤ツノダシ……10日3尾、23日3尾計6尾が稚賀氏の努力で持込まれNo. 36号水槽に入つてゐたが、30日早暁セミエビが暴れて水栓を抜いたために、無念にも全滅したのを惜みて余りある次第であつた。

⑥マノミ……13日1尾。

⑦イトヒキアジ……13日2尾、20日1尾計3尾が生存している。

⑧カブトガニ……15日2匹死亡。

⑨ルリハタ……23日に1尾入つたが、26日には死亡した。

⑩アオリイカ……20日以後 水槽に入つてゐる。

⑪イザリウオ……20日、No. 9号水槽に入つた。

No. 28号水槽に8月の頃よりスキフラが附着(はじめた)。

博物館にコブシメの大きな甲を陳列した。また6月号(18頁)に紹介したクソデイカの標本及び従来飼育室にあつたラブカの標本も博物館に陳列した。

- (14) 7月の記録通り 20日雑賀氏が南浜で捕獲して持込まれた
アカウミガメは6月25日大阪高島屋に運ばれ、大分の人気を集
めていたが、後に天王寺動物園に寄贈された。

1952年度との比較

	1952	1953
入場者	13026	7518
売上金	219,537.00	136,460.00
支出金	193,518.00	155,310.00